

ひとりだち

みみの助

きこえとことばの
支援センターだより
R6年 6月号



だい かい なんちようとくべつし えんがつきゅうとうたんとうしゃ がくしゅうかい 第1回 難聴特別支援学級等担当者 学習会

5月22日(水)に、難聴特別支援学級等担当者学習会を行いました。県内の難聴特別支援学級
担当者や言語通級指導教室担当者、難聴乳幼児担任保育士等16名の方が参加されました。

授業参観を含めた校内見学や講話、グループに分かれての学習会を行いました。今回参加していただ
いた、先生方からの感想を一部ご紹介します。

校内見学について

- ・児童の反応をしっかり受け止め、指導されている
ところが勉強になりました。
- ・発達段階に応じた環境づくり、支援がなされて
いることが分かりとても良かったです。
- ・何について説明しているか、見てもわかるように
配慮され、一人一人に伝わるような配慮が大切
だと教えてもらうことができました。

交流会について

- 【未就学グループ】
・同じような状況の先生方と悩みや実践している
工夫について共有することができました。
- 【小学生グループ】
・悩みを気軽に相談でき、とても有意義でした。
- 【中学生グループ】
・聾学校の先生の実践にもとづくお話も、なるほ
ど!と思うことが多くありがたかったです。
- 【言語通級指導グループ】
・個それぞれへの対応が大切だと思いました。

講話について

講話①「岐阜聾学校の自立活動について」

講師:勝田 純子 研修主事

- ・自立活動について悩んでいたのも、とても参考
になりました。
- ・参考になる資料の紹介も多く、助かりました。

講話②「きこえにくさとその支援について」

講師:田中 由香 乳幼児教室担当者

- ・はじめて聴覚障がいの子の担当をするので、
支援方法を学ぶことができて良かったです。
- ・きこえの体験をすることで、より理解が深まりました。

感想は原文のままです。

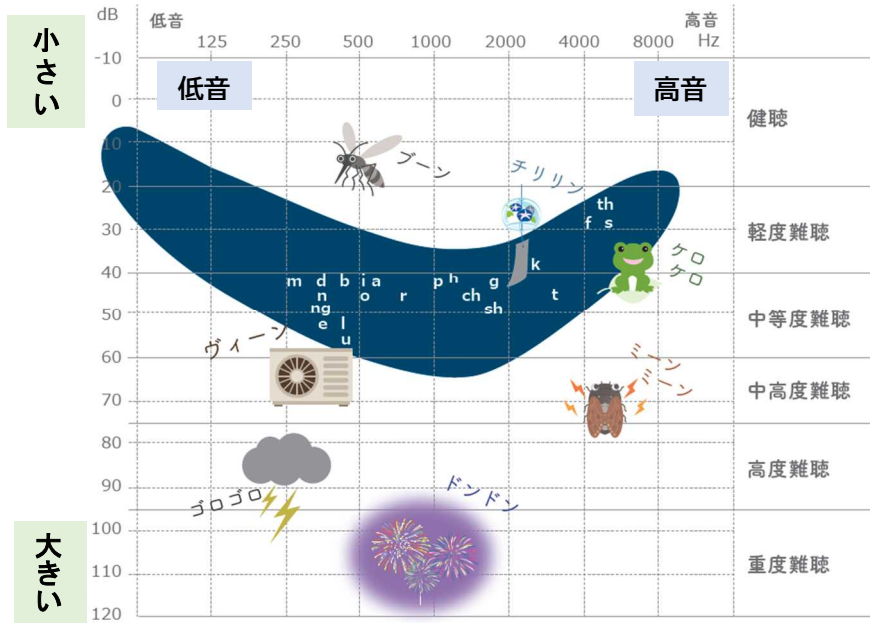
講話①の 様子



講話②の 様子

聴覚障がい教育においては、まだまだ知識や情報を得る場が少なく、学習会に参加された先生方も
日々悩みながら、指導を行っているようでした。このような会に積極的に参加いただける方が多くみえ、
当校としても、外部に向けた学習会の重要性を改めて感じました。第2回の学習会は8月22日(木)に
行います。学習の機会を生かし、情報交換をしながら共に学び、聾学校の幼児児童生徒だけではなく、
地域で学ぶ聴覚障がい児への支援も行っていきたいと考えています。

はなひとみき 話す人を見て「聞く」



PHONAK
life is on より

このグラフは、縦軸（縦の方向）が音の大きさ、横軸（横の方向）が音の高さを表しています。また、紺色の「スピーチバナナ」と言われている部分と、これからの暑い季節に聞こえてくる音が表されています。「スピーチバナナ」は、世界で話されている言葉の音をグラフに表すとバナナのような形になることから、そのように呼ばれています。

低く大きい音である母音（a.i.u.e.o）は、500Hz付近にあり、他の子音と比べると、40 dB以上のやや大きめの音なので、聞き取りやすい音であることが分かります。

一方、子音はほんの一瞬の発音であり、「スピーチバナナ」を見れば分かるように、高く小さめの音なので、聞き取りが難しくなると考えられています。特に、タ行、サ行、ハ行、カ行（上の図のカエルや風鈴のあたり）は、より高い音で、聞き取りにくい場合が多いです。聞こえにくい音の中でも、「タ」と「カ」は、どちらも「ア段の音」、「ス」と「フ」は、どちらも「ウ段の音」となり、聞き間違いにつながりやすいとも言えます。

つまり、聴覚障がいのある人にとっては、読唇のみの会話は、全ての情報を正確に得ることは難しいということが分かります。会話をするときには、話し手（話す人）のことをよく見て、表情だけでなく口の形や舌の動きなど視覚的な情報を最大限に活用しながら聞く必要があるということです。手話や指文字を使った会話や筆談も、情報をしっかり得るためにはもちろん有効ですが、話す相手や話し手を見ながら「聞く」習慣を身に付けていけるといいですね。

7月 ぼちょうそうだん よてい
補聴相談の予定

* ナショナル補聴器センター 7月 3日、17日（毎月第1・3水曜日）
* 理研産業 7月10日（毎月第2水曜日）

場所：本館1階 補聴相談室

時間：13時30分～相談が終わり次第終了

* イヤモード作成、補聴器の不具合等の相談は、業者来校日の前に、担任を通じて補聴相談係への連絡後、申込用紙の提出が必要です。

